

第

一

章

庶

務

関

係

長万部町の位置

東は内浦湾に臨み、北は長万部川をさかのぼって、島牧村・黒松内町に接し、西は今金町に、南は八雲町に接している。



1 長万部町の概要

長万部町は、北海道渡島半島内浦湾の最深部に位置し、南北最長28.4km、東西最長29.4kmにわたり、総面積は310.76Km²で、国道5号線、37号線、230号線の主要幹線が集中している。かつては国鉄の函館本線、室蘭本線、瀬棚線の分岐点があり、鉄道の町として栄えたが、現在はドライブイン街に立ち並ぶカー販売店や天然記念物の石灰ドームがある二股らちうむ温泉が有名で、世界的にも珍しいワイン型の漁港が建設され、ホタテ貝の養殖が盛んに行われている。又、東京理科大学長万部校舎が開校され学術文化の町としても発展し、平成9年10月には道央自動車道路の長万部インターが開通し、平成13年11月には国縫インターも開通となり、地域と中央圏への交通の要衝として重要な役割を果たしております。

又、平成10年には北海道新幹線長万部駅が決定となり早期開通が待たれるところであります。

■ 開 基	明治6年（1873年）「平成25年で開基140周年」		
■ 位 置	東経／140度 9分～140度33分		
	北緯／ 42度22分～ 42度37分		
■ 面 積	310.76 Km ²		
■ 人 口	5,282人	（男2,425人 女2,857人）	
■ 世帯数	2,895世帯	「平成31年3月31日現在」	

☆地名の由来

おしゃまんべ町という名の由来は、市街地北東部にある標高498mの写万部山が起源といわれ、その昔、カレイが豊富に獲れる海岸の目印としてアイヌの人々がこの山をシャマンベ(カレイ)ヌプリ(山)と呼んだのが転訛したものと考えられています。

2 長万部町消防の沿革

(1) 沿革

明治33年 9月	國縫火防組創設、出初め式を行った。 〔初代組頭 武内重右エ門〕
明治44年10月	公立長萬部消防組創設、腕用ポンプを購入配置 〔初代組頭 岡部定太郎 〕
大正 8年 2月	國縫消防組が管内消防組消防大会に出場し【優勝】の栄によく して、名誉賞・金馬簾一条をうけた。
大正 8年11月	腕用ポンプ購入配備（國縫消防組）
大正 9年 9月	長萬部消防組創立10年記念演習、祝賀会が行われた。
大正11年 9月	静狩消防組が住民の寄付をもって機械器具を設備し私設 消防組を組織した。〔初代組頭 吳 竹次郎〕
大正11年12月	北海道警察部長より金馬簾の使用が認許された。〔國縫消防組〕
大正13年 7月	静狩消防組が公設消防組となった。〔組頭 永井小四郎〕
大正14年 8月	公立中ノ澤消防組創設、腕用ポンプを購入配置
昭和 2年 7月	静狩消防組に金馬簾の使用が許可された。
昭和 3年 2月	静狩消防組に手挽ガソリンポンプ1台を増設
昭和 7年 7月	長萬部村内三公設消防組が統合した。 長萬部、國縫、静狩の三部制とし組頭は村長が兼任した。
昭和 8年12月	手挽ガソリンポンプを購入配置
昭和10年 9月	静狩鉦山の発展により鉦山消防組（組員20名）が公認された。 静狩金山が自動車ポンプ他一切の施設を寄付する。
昭和10年10月	手挽ガソリンポンプを購入配置
昭和11年 8月	手挽ガソリンポンプを購入配置
昭和13年 1月	私設二股消防組を公設消防組とした。
昭和14年 1月	私設川向消防組を公設消防組とし、長萬部消防組を三部編成と した。
昭和14年 3月	警防団令の施行により四個消防組を合併し、長萬部村警防団に 改組した。
昭和14年 4月	静狩金山の経費負担により、静狩鉦山警防団を設置した。
昭和16年 3月	山本安太郎氏が自動車ポンプ1台を寄贈、第1号配置した。
昭和18年 3月	静狩鉦山警防団が解散した。

・歴代長萬部消防組頭及び警防団長

初 代	岡 部 定太郎	4 代	高 村 由 蔵	7 代	竹 内 彌次郎
2 代	横 田 寿 吉	5 代	清 水 富太郎	8 代	山 本 安太郎
3 代	東 条 幾太郎	6 代	北 岡 惣次郎	_____	

昭和21年 9月	長萬部警防団の改組結成式が挙行され、長万部町消防団に改組、4分団を設置し、団長に野螻作太郎が就任した。
昭和22年 7月	消防団長に金谷金次郎氏が就任した。
昭和22年 9月	長万部消防団後援会が設立され、会長に山本安太郎氏が就任した。
昭和23年12月	消防団給与条例・団員の定数・任免・服務・消防吏員の定数18人、団員定数200人など一連の条例、規則を制定 消防本部設置 初代消防長は金谷団長が兼務した。
昭和24年10月	第2号自動車ポンプ購入、長万部分団に配置
昭和25年10月	第3号自動車ポンプ購入、長万部分団に配置 第2号自動車ポンプ静狩分団に配置替えをした。
昭和26年 7月	長万部駅前に鉄筋コンクリートの防火水槽を建設した。
昭和27年 6月	函館市で行われた渡島管内消防技能競技大会で長万部町消防団が優勝した。
昭和27年 6月	小型動力ポンプを購入、双葉分団に配置した。
昭和27年 7月	北海道消防技能競技大会で準優勝した。
昭和28年 7月	消防タンク車購入、長万部分団に配置 第2号自動車ポンプを国縫分団に配置替えをした。
昭和28年 7月	上磯町で開催された消防競技大会で長万部消防団が2年連続優勝した。
昭和33年 7月	長万部分団第6部(現中ノ沢分団)に小型動力ポンプを配備
昭和34年 8月	長万部分団第5部に小型動力ポンプを配備
昭和36年10月	国縫消防会館落成
昭和37年 7月	国縫分団に小型動力ポンプ〔シバウラ〕を配備
昭和38年 8月	渡島地方消防訓練大会が長万部町で開催された。
昭和38年 9月	静狩分団に小型動力ポンプ〔シバウラ〕を配備
昭和39年 9月	双葉分団に小型動力ポンプ〔シバウラ〕を配備
昭和39年12月	消防本部庁舎が鉄筋コンクリート二階建(297.02㎡)に移転新築落成された。
昭和40年11月	長万部消防後援会よりトヨエース(63年型 1,200cc55馬力)中古車が贈与され、旭川森田ポンプにおいて小型動力ポンプ積載車として艤装を行なった。
昭和42年 8月	静狩・国縫に小型動力ポンプ付積載車〔トヨエース〕を配備
昭和43年 7月	日本赤十字社から救急車が配備され救急業務を開始した。
昭和43年12月	1号タンク車(2,500ℓ)を購入配備〔いすゞ〕
昭和44年 1月	長万部局の電話がダイヤル式に切換えられ消防本部に緊急通信用の電話119番がついた。

昭和44年	1月	消防本部に化学消火剤を積載したタンク車が配備された。
昭和45年	2月	長万部町消防団に対し、日本消防協会長より竿頭綬が授与された。
昭和45年	6月	長万部分団第4部創設
昭和46年	11月	3号ポンプ車を購入〔トヨタ〕
昭和47年	9月	2号タンク車(2,500ℓ)を購入配備〔いすゞ〕
昭和48年	4月	消防職員増員、13名体制となった。
昭和48年	10月	消防長事務取扱に助役、杉田和典氏が就任した。
昭和49年	1月	消防団長に、石川 武氏が就任した。
昭和49年	10月	消防署が設置された。
昭和49年	11月	長万部分団第4部に小型動力ポンプ付積載車を配備した。 〔トヨタトヨエース〕
昭和50年	4月	消防指令車を購入する。〔トヨタコロナバン〕
昭和50年	4月	消防職員を増員し、15名体制とした。
昭和52年	6月	渡島地方消防総合訓練大会が、長万部町で開催された。
昭和53年	6月	2B型救急車〔トヨタハイエース〕を購入配備
昭和53年	6月	救急車〔トヨタクラウンバン〕を旭川日赤に返還した。
昭和53年	7月	自治体消防制度30周年記念渡島地方消防総合訓練大会が 開催された。消防ポンプ自動車操法の部【3位入賞】
昭和53年	12月	故 元消防団長 金谷金次郎氏の妻 タケ夫人から50万円が 寄贈された。〔アルミ防火服30着購入〕
昭和54年	8月	中ノ沢分団に小型動力ポンプ付積載車を配備
昭和57年	3月	第5部小型動力ポンプを廃棄処分した。町資料館に寄贈
昭和57年	6月	消防指令車更新〔日産スカイラインバン〕
昭和57年	8月	北海道消防操法訓練大会小型ポンプ操法の部で国縫分団が 出場し優勝した。
昭和58年	8月	国縫分遣所が改築された。
昭和59年	8月	静狩分遣所が改築された。
昭和59年	10月	消防団員の定数180人とする。
昭和60年	2月	1号タンク車を更新〔いすゞフォワード〕
昭和60年	7月	国縫分団所属小型動力ポンプ付積載車を更新〔トヨタダイ〕
昭和60年	12月	静狩分団所属小型動力ポンプ付積載車を更新〔トヨタダイ〕
昭和61年	1月	故 元町議会議長 金谷勝次郎の妻 静子夫人から50万円が 寄贈された。〔消防団旗購入〕
昭和61年	5月	故 消防長事務取扱 杉田和典の妻 弘夫人から100万円が 寄贈された。〔ホース27本購入〕
昭和61年	9月	2号タンク車を更新〔いすゞフォワード〕
昭和61年	12月	団長に野呂義一氏が就任した。
昭和63年	7月	2B型救急車を更新〔トヨタハイエース4WD〕
昭和63年	9月	3号ポンプ車を更新〔いすゞフォワード〕
昭和63年	9月	消防団員の定数150人とする。
平成 元年	2月	山之内製薬株式会社より2B型救急車が寄贈された 〔日産キャラバン〕

平成	元年	6月	消防指令車を更新〔トヨタクラウンバン〕
平成	元年	12月	消防団長に石田豊治氏が就任した。
平成	2年	5月	平成2年度渡島地方消防総合訓練大会に出場した。 ポンプ車操法の部【準優勝】
平成	2年	7月	北海道消防操法訓練大会、長万部分団がポンプ車の部に出場した。
平成	2年	10月	故 元消防団長 野呂義一の妻 タケ子夫人から100万円が 寄贈された。〔防火服30着・テント2張購入〕
平成	3年	5月	平成3年度渡島地方消防総合訓練大会に出場した。 ポンプ車操法の部、2年連続【準優勝】
平成	3年	11月	長万部分団第4部、小型動力ポンプ付積載車更新 〔三菱キャンター4WD〕
平成	4年	4月	消防職員を増員し、17名体制とした。
平成	4年	10月	サイレン遠隔吹鳴装置を新設した。 親局1（本部）子局5（温泉、国縫、静狩、中ノ沢、双葉）
平成	5年	6月	平成5年度渡島地方消防総合訓練大会が長万部町で開催された。 ポンプ車操法の部【優勝】 小型動力ポンプ操法の部【準優勝】
平成	5年	7月	北海道南西沖地震（震度6）により公共施設・住宅等を含め 被害額45億1,200万円におよんだ。
平成	5年	7月	北海道南西沖地震により北海道広域消防相互応援協定第2要請 があり、奥尻町へ職員1名の派遣を行なった。
平成	5年	7月	国縫、静狩分遣所を廃止し、分団機械器具置場とした。
平成	5年	10月	長万部町消防本部が南西沖地震による功労で、北海道消防 表彰を（随時表彰）受賞した。
平成	6年	7月	長万部町消防本部が防災功労消防庁長官表彰を受賞する。
平成	6年	11月	サイレン遠隔吹鳴装置子局を増設した。（国縫、静狩）
平成	7年	6月	油圧式救助器具購入（メーカー名：アムカス）
平成	7年	8月	函館空港全日空機ハイジャック事件応援活動のため救急車 1台及び救急隊員3名を派遣し、この功績により消防庁長官 より感謝状が授与された。
平成	7年	10月	防火水槽（耐震性）を中ノ沢地区に設置した。
平成	8年	7月	双葉分団に小型動力ポンプ積載車を配備 〔四輪駆動軽自動車・B3級トーハツポンプ〕
平成	8年	7月	サイレン遠隔吹鳴装置子局増設（字大浜・字旭浜）
平成	8年	7月	北海道消防操法訓練大会、静狩分団が小型ポンプ操法の部 に出場した。
平成	9年	4月	消防長専任化される。消防長に加谷脩氏が就任した。
平成	9年	4月	消防職員を増員し、20名体制とした。
平成	9年	6月	長万部町消防団に対し、北海道消防協会長から表彰旗が授与された。
平成	9年	7月	サイレン遠隔吹鳴装置子局増設（曙町）
平成	9年	10月	道央自動車道長万部インターが開通し北海道高速自動車国道 事故等対策訓練が開催される。（人員97名、車両17台、ヘリ2機）

平成１０年１１月	平成１０年度北海道定例消防表彰で、長万部町消防団に対し、北海道知事より竿頭綬を授与された。 サイレン遠隔吹鳴装置子局増設（南栄町）
平成１１年　２月	救急救命士配置（同年４月一部運用開始）
平成１１年　２月	高規格救急自動車導入（日産パラメデック　３，３００ｃｃ）
平成１１年　６月	消防指令車更新（トヨタサーフ４ＷＤ　３，４００ｃｃ）
平成１１年　７月	サイレン遠隔吹鳴装置子局増設（高砂町）
平成１２年　３月	有珠山噴火に伴い北海道広域消防相互応援協定により虻田町へ職員延べ２８名の派遣を行った。
平成１２年　４月	消防長に竹政良記氏が就任した。
平成１２年　８月	有珠山噴火に対する応援派遣により、消防本部に対し消防庁長官から褒状が授与された。
平成１２年　９月	ＪＡ共済より２Ｂ型救急車が寄贈された。 （トヨタグランビア３，４００cc）
平成１２年１２月	国縫消防分団創設１００周年記念式典が挙行された。
平成１３年　２月	長万部町消防団に対し、日本消防協会長から表彰旗が授与された。
平成１３年　３月	長万部町消防団に対し、消防庁長官から竿頭綬が授与された。
平成１３年１１月	道央自動車道国縫インター開通
平成１４年　４月	消防長に高橋栄氏が就任した。
平成１５年　７月	中ノ沢分団所属小型動力ポンプ付積載車を更新 （トヨエース　１.７５ｔ　４ＷＤ）
平成１５年　９月	十勝沖地震　苫小牧出光興産コンビナート予防対策支援活動に伴い北海道広域消防相互応援協定に基づき苫小牧市へ職員１名の派遣を行った。
平成１５年１０月	消防本部庁舎が鉄筋コンクリート造二階建一部塔屋（１，１００.３㎡）が完成し移転した。
平成１５年１１月	長万部町消防団に対し、北海道知事から表彰旗が授与された。
平成１７年　４月	消防長に高橋浩寛氏が就任した。
平成１８年　３月	長万部町消防本部・長万部町消防団に対し消防庁長官から表彰旗が授与された。
平成１８年　８月	消防団長に守田則雄氏が就任した。
平成１９年　４月	消防長に影浦和康氏が就任した。
平成２０年　６月	渡島地方消防総合訓練大会が長万部町で開催された。 （渡島支庁管内１１市町村１６消防団　７６２名参加）
平成２１年　６月	消防団員用活動服整備事業で１０６名全員に活動服を貸与した。

平成21年 9月	高規格救急自動車を更新〔トヨタハイメデック2, 700cc〕
平成21年10月	〔2B型救急車トヨタグランビア3,400ccを予備車とした。〕 1号消防タンク車を更新〔日野自動車8,800cc 3,000ℓ〕
平成22年 1月	〔旧1号タンク車いすゞフォワードは道消防学校に寄贈した。〕 サイレン遠隔吹鳴装置子局2基増設
平成22年 2月	〔旧消防署跡地（元町）、現消防本部（大町）〕 住宅用火災警報器設置業〔町内居住世帯に1個無料配布〕 （設置した件数 2,764世帯）
平成22年 4月	消防長に土田秀明氏が就任した。
平成23年 7月	北海道消防操法訓練大会、国縫分団が小型ポンプ操法の部に出場した。
平成24年 2月	国縫分団所属小型動力ポンプ付積載車を更新 （いすゞELF 4WD）
平成24年 7月	女性消防団員13名、事業所消防団員10名が入団し、 団本部に事業所部、女性部を設置した。
平成24年11月	消防救急デジタル無線設備基本設計完了。
平成25年 4月	消防長に佐藤英代氏が就任した。
平成25年10月	J A 共済より2B型救急車が寄贈された。 （トヨタハイエース 2.700cc） （旧日産パラメデックは道消防学校に寄贈した。）
平成25年11月	消防団員安全装備品事業で防火衣一式 13着を装備した。
平成26年 2月	消防救急デジタル無線設備実施設計完了。
平成26年11月	消防庁より救助資機材搭載型車両の無償貸付を受け、 静狩分団に配置。（いすゞELF） 〔旧静狩積載車（トヨタダイナ）は、平成27年度に発足する 機能別消防隊特別水槽部隊（堀川清掃）に配置。〕
平成27年 3月	消防救急デジタル無線システム整備完了。 （総事業費154,100千円）（平成27年度運用開始予定）
平成27年 4月	町内5事業所から機能別消防団員21名が入団。 団本部に特別水槽部隊（12名）、特別重機部隊（7名）、特別林野部隊（2名）、特別救助部隊（静狩分団兼任）の4部隊からなる機能別消防隊を設立。 平成27年5月20日、本部庁舎前で発足式を行った。
平成28年 1月	機能別消防隊へ多数入団させた功により長万部町長から株式会社堀川清掃へ感謝状が授与された。
平成28年 8月	台風10号が長万部町に接近。 出動職員 20名 出動車両 4台 通報件数 23件
平成28年 9月	コミュニティ助成事業にて、流水対策胴付6着、救命胴衣50着、救助ボート2艇を整備した。
平成29年 4月	長万部町消防団の団員数が、定員の150名となった。
平成30年 4月	大型水槽車を購入し配備完了。
平成30年11月	消防長に中田義之氏が就任した。
平成30年11月	消防団員安全装備品整備事業助成金で半長靴111足を装備した。（女性部及び機能別消防隊を除く全団員分）

平成30年12月

国縫機械器具置場が移転新築落成された。

(2) 長万部町大火等の記録

内容等 発生年月日	大火等の内容	焼失棟数	焼失面積 (㎡)	死者 傷者 損害額
大正5年 9月 1日	字國縫市街地住宅から出火。	28	不明	不明
昭和9年 7月25日	字長万部市街地住宅から出火。 道路が狭く木造の家屋が立込み延焼。	99	不明	0 10 不明
昭和30年 9月23日	字静狩市街地から放火により出火。 消防機関に対する通報の遅れにより延焼。	18	1,432.2	— — 3千3百万円
昭和33年 2月25日	字長万部25番地 住宅より出火。 玄関以外の避難口が無く7名の死傷者。	2	116.33	6 1 175万円
昭和36年 12月14日	字静狩市街地 煙突の加熱により出火。 西の風10mにより延焼。	17	1,548.0	0 0 3千5百万円
昭和42年 4月16日	字国縫北晴合板(株)国縫工場より出火。 木造の大建築物で水利の便が悪く全焼。	1	4,532.0	0 0 1億5千万円
平成3年 3月27日	字長万部温泉街休業中の旅館より出火。 南東の風8m木造老朽建築物のため全焼。	2	658.0	2 2 2千98万円

(3) 叙勲・藍綬褒章受章等

受章年月	受章種別	階級	氏名
昭和 42年 2月	藍綬褒章受章	消防司令長	金 谷 金次郎
昭和 47年11月	勲六等瑞宝章	元副団長	吉 沢 益 登
昭和 48年 4月	勲六等瑞宝章	元副団長	東 時次郎
昭和 50年 4月	勲五等双光旭日章	元消防司令長	金 谷 金次郎
昭和 60年 4月	勲六等瑞宝章	元副分団長	鈴 木 逸 郎
昭和 61年11月	勲五等双光旭日章	元団長	石 川 武
昭和 61年11月	勲六等瑞宝章	元分団長	小 柳 虎 雄
平成 元年11月	勲六等瑞宝章	元分団長	菅 野 政 一
平成 2年 7月	勲六等単光旭日章	元団長	野 呂 義 一
平成 5年11月	勲六等瑞宝章	元分団長	尾 西 一 郎
平成 11年 4月	勲六等単光旭日章	元副団長	斉 藤 忠 雄
平成 17年11月	瑞宝単光章	元分団長	橋 場 清 一
平成 19年11月	瑞宝双光章	元団長	石 田 豊 治
平成 19年11月	瑞宝単光章	元副団長	太 田 一 夫
平成 26年 4月	瑞宝双光章	元消防司令長	竹 政 良 記
平成 26年 9月	瑞宝単光章	元分団長	濱 野 定 雄
平成 27年 4月	瑞宝双光章	元消防司令長	高 橋 榮
平成 27年 4月	瑞宝単光章	元副団長	佐 藤 重 吉
平成 28年11月	瑞宝単光章	元分団長	菊 池 弘
平成 30年 1月	瑞宝双光章	元消防司令長	影 浦 和 康
平成 30年11月	瑞宝単光章	元分団長	眞 神 弘

(4)歴代消防長・署長・団長

①歴代消防長

消防長	氏名	期間	備考
初代	金谷金次郎	自 昭和23年12月3日 至 昭和48年10月19日	消防団長兼務
2代	杉田和典	自 昭和48年10月20日 至 昭和61年3月31日	助役事務取扱
3代	西田君雄	自 昭和61年4月1日 至 昭和62年5月20日	町長事務取扱
4代	本間 隆	自 昭和62年5月20日 至 平成3年7月9日	助役事務取扱
5代	西田君雄	自 平成3年7月9日 至 平成4年5月14日	町長事務取扱
6代	藤田慎太郎	自 平成4年5月14日 至 平成8年3月31日	助役事務取扱
7代	高谷紀男	自 平成8年4月1日 至 平成9年3月31日	助役事務取扱
8代	加谷 脩	自 平成9年4月1日 至 平成12年3月31日	
9代	竹政良記	自 平成12年4月1日 至 平成14年3月31日	
10代	高橋 榮	自 平成14年4月1日 至 平成17年3月31日	
11代	高橋浩實	自 平成17年4月1日 至 平成19年3月31日	
12代	影浦和康	自 平成19年4月1日 至 平成22年3月31日	
13代	土田秀明	自 平成22年4月1日 至 平成25年3月31日	署長兼務 平成22年12月31日まで
14代	佐藤英代	自 平成25年4月1日 至 平成30年10月31日	
15代	中田義之	自 平成30年11月1日 至	

②歴代消防署長

消防署長	氏名	期間	備考
初代	吉荒正志	自 昭和49年10月1日 至 昭和52年3月31日	
2代	斉藤孝市	自 昭和52年4月1日 至 昭和54年4月30日	
3代	嶋崎昭治	自 昭和54年5月1日 至 昭和62年3月31日	
4代	番井省吾	自 昭和62年4月1日 至 平成2年4月1日	
5代	田中 隆	自 平成2年4月1日 至 平成7年4月1日	
6代	中田 勲	自 平成7年4月1日 至 平成9年4月1日	
7代	竹政良記	自 平成9年4月1日 至 平成12年3月31日	
8代	高橋 榮	自 平成12年4月1日 至 平成14年3月31日	
9代	影浦和康	自 平成14年4月1日 至 平成19年3月31日	
10代	土田秀明	自 平成19年4月1日 至 平成22年12月31日	
11代	佐藤英代	自 平成23年1月1日 至 平成25年3月31日	
12代	中田義之	自 平成25年4月1日 至 平成30年10月31日	
13代	土谷憲秋	自 平成30年11月1日 至	

③歴代消防団長

消防団長	氏名	期間	備考
初代	野嶋作太郎	自 昭和21年9月1日 至 昭和22年7月28日	
2代	金谷金次郎	自 昭和22年7月29日 至 昭和48年10月19日	
3代	石川 武	自 昭和48年12月15日 至 昭和61年11月30日	
4代	野呂義一	自 昭和61年12月1日 至 平成元年11月30日	
5代	石田豊治	自 平成元年12月1日 至 平成18年7月31日	
6代	守田則雄	自 平成18年8月1日 至	

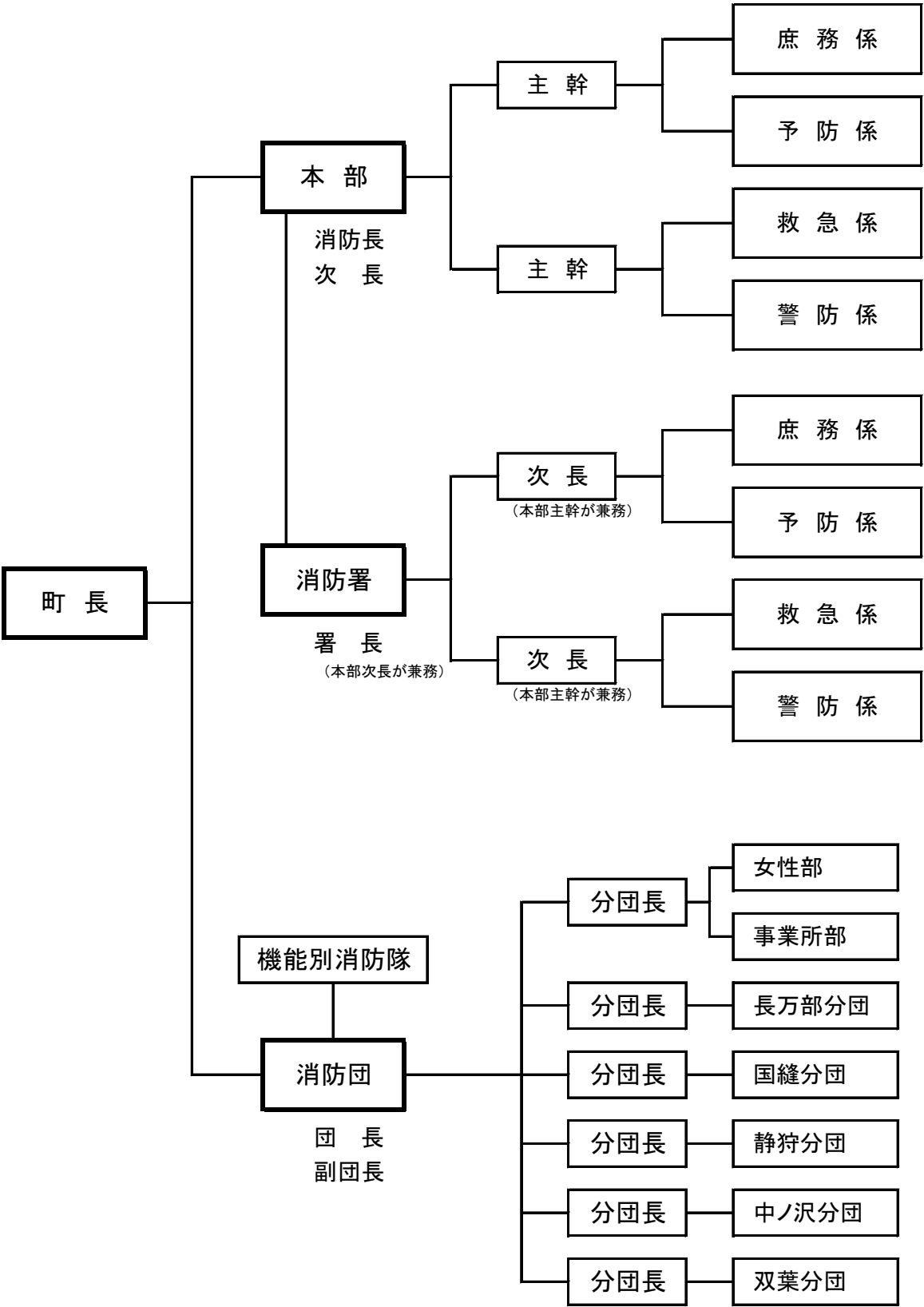
3 平成30年度の主要行事

年月日・期間	所管係	行 事 等
4 月 12 日	予防係	長万部町危険物安全協会定期総会 会員 17名 職員 5名
4 月 23 日	庶務係	長万部町消防団幹部会議 団員 16名 職員 8名
4 月 20 日 、 4 月 30 日	予防係	全道春の火災予防運動（第1回消防団員定期訓練） 団員 29名 署員 13名
6 月 9 日	警防係	平成30年度渡島地方消防総合訓練大会 松前町「松前町立松前中学校グラウンド」 小型ポンプ操法出場 団員 26名出場 職員 7名出席
6 月 23 日 、 7 月 14 日	警防係	第2回消防団員定期訓練 団員 22名
7 月 17 日	庶務係	第2回長万部町消防団幹部会議 団員14名 署員8名
8 月 4 日	庶務係	おしゃまんべ消防フェス2018開催 参加者 218名 団員 36名 職員 20名
8 月 26 日 、 9 月 8 日	警防係	第3回消防団員定期訓練 団員 53名
9 月 9 日	救急係	救急医療週間「救急の日」
10 月 9 日 、 10 月 30 日	予防係	全道秋の火災予防運動（第4回消防団員定期訓練） 団員 69名 署員 12名
11 月 28 日	警防係	平成30年度幹部団員教育訓練 団員11名
11 月 9 日	警防係	119番の日
11 月 9 日 、 11 月 15 日	予防係	全国秋の火災予防運動
12 月 7 日	庶務係	長万部町消防団幹部会議 団員 17名 職員 8名
12 月 27 日 、 12 月 30 日	警防係	第5回消防団員定期訓練 団員 56名
1 月 5 日	庶務係	平成31年長万部町消防出初式 団員 69名 職員 17名
2 月 17 日 、 2 月 28 日	警防係	第6回消防団員定期訓練 団員 37名
3 月 1 日 、 3 月 7 日	予防係	全国春の火災予防運動

4 消防組織と現有力

(1)消防組織図

署 は兼務



(2)職員の配置

平成31年3月31日 現在

階級別 配置別	司 令 長	司 令	司 令 補	士 長	副 士 長	消 防 士	計
消 防 長	1						1
署 長		1					1
庶 務 係		1 *	1	1		1	4 *
予 防 係			2		1	1	5 *
救 急 係		1 *	1			2	4 *
警 防 係			2	1		2	6 *
計	1	3	6	2	1	6	19

* 救急・警防担当及び庶務・予防担当は司令兼務。

(3)職員の年齢

平成31年3月31日 現在

階級別 配置別	司 令 長	司 令	司 令 補	士 長	副 士 長	消 防 士	計
55 才 以 上	1	1					2
50 才 以 上		2					2
45 才 以 上			1				1
40 才 以 上			5				5
35 才 以 上				2			2
30 才 以 上							0
25 才 以 上					1	4	5
20 才 以 上						2	2
20 才 未 満							0
計	1	3	6	2	1	6	19
平 均 年 齢	57.0	54.3	43.2	38.0	28.0	24.7	38.5

(4)職員の勤続年数

平成31年3月31日 現在

階級別 配置別	司 令 長	司 令	司 令 補	士 長	副 士 長	消 防 士	計
30 年 以 上		1					1
25 年 以 上	1	2	2				5
20 年 以 上			4				4
15 年 以 上				2			2
10 年 以 上							0
5 年 以 上					1	3	4
5 年 未 満						3	3
計	1	3	6	2	1	6	19
平 均 年 数	29.0	31.0	23.5	17.5	9.0	4.1	17.3

(5)職員資格技能取得者

平成31年3月31日 現在

階級別 資格別	司 令 長	司 令	司 令 補	士 長	副 士 長	消 防 士	計
大 型 自 動 車	1	3	6	2	1	6	19
中 型 自 動 車	1	3	6	2			12
普 通 自 動 車					1	6	7
大 特 自 動 車	1	2		1		1	5
け ん 引 自 動 車	1						1
特 殊 無 線 免 許	1	2	4	1	1		9
危 険 物 取 扱 者	1	3	5	1	1	1	12
消 防 設 備 士			1				1
救 急 救 命 士	1	1	5	1		3	11
応 急 手 当 指 導 員	1	3	6	2	1	5	18
自 動 車 整 備 士				1			1
玉 掛 け 及 び 小 型 移 動 式 ク レ ー ン	1			1		1	3
車 両 系 建 設 機 械 運 転 技 能	1	3		1			5
特 定 科 学 物 質 等 作 業 主 任 者		1					1
酸 素 欠 乏 危 険 作 業		1	3	1			5

(6)職員消防学校入校状況

平成31年3月31日 現在

階級別 資格別	司 令 長	司 令	司 令 補	士 長	副 士 長	消 防 士	計
初 任 教 育	1	3	6	2	1	6	19
救 急 II 課 程		2					2
救 急 標 準 課 程			1				1
救 急 科				1	1	3	5
救 助 科			1	1	1		3
警 防 科			1	1			2
指 揮 隊 長 課 程		1	1				2
危 険 物 課 程		1					1
危 険 物 科				1			1
火 災 調 査 課 程			3			1	4
予 防 査 察 科			2		1		3
は し ご 自 動 車			1				1
救 急 救 命 士	1	1	5	1		3	11
消 防 大 学 校			1				1
気 管 挿 管		1	5	1		1	8
薬 剤 投 与		1	5	1		2	9
ビ デ オ 喉 頭 鏡		1	5	1			7
処 置 拡 大 2 行 為			5	1			6

(7)団員の配置

平成31年3月31日 現在

階級別 配置別	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員	計
団 本 部	1	2	1	2	3	5	45	59
長 万 部 分 団			1	3	5	16	23	48
国 縫 分 団			1	1	2	4	9	17
静 狩 分 団			1	1	1	1	5	9
中ノ沢分団			1	1	1	1	3	7
双 葉 分 団			1	1	1	4	3	10
計	1	2	6	9	13	31	88	150

(8)団員の年齢

平成31年3月31日 現在

階級別 配置別	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員	計
65 才 以 上	1	2	3	1	3	2	2	14
60 才 以 上			2	2	4	1	5	14
55 才 以 上			1	2	3	1	3	10
50 才 以 上				2		8	3	13
45 才 以 上				1	1	11	7	20
40 才 以 上				1	2	6	14	23
35 才 以 上						1	24	25
30 才 以 上						1	18	19
25 才 以 上							7	7
20 才 以 上							4	4
20 才 未 満							1	1
計	1	2	6	9	13	31	88	150
平 均 年 齢	70.0	68.5	64.5	55.3	58.2	48.5	39.0	45.2

(9)団員の勤続年数

平成31年3月31日 現在

階級別 配置別	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員	計
30 年 以 上	1	2	6	6	5	2	1	23
25 年 以 上					3	8		11
20 年 以 上				1	2	11	1	15
15 年 以 上				2		3	3	8
10 年 以 上						2	5	7
5 年 以 上					3	5	31	39
5 年 未 満							47	47
計	1	2	6	9	13	31	88	150
平 均 年 数	51	37.5	39.3	29.0	23.6	20.5	5.5	13.7

(10)団員の退職報償金(H31.3.31現在)

(単位:千円)

勤続年数	5年以上	10年以上	15年以上	20年以上	25年以上	30年以上
階 級	10年未満	15年未満	20年未満	25年未満	30年未満	
団 長	239	344	459	594	779	979
副 団 長	229	329	429	534	709	909
分 団 長	219	318	413	513	659	849
副 分 団 長	214	303	388	478	624	809
部 長・班 長	204	283	358	438	564	734
団 員	200	264	334	409	519	689

(11)団員の報酬

ア 年報酬

階 級	金 額
団 長	74,000
副 団 長	61,000
分 団 長	43,000
副 分 団 長	39,000
部 長	34,000
班 長	29,000
団 員	25,000
機能別団員	20,000

イ 出勤報酬

種 別	金 額
火 災 出 動	5,000
災 害 出 動	5,000
警 戒 出 動	4,500
訓 練 出 動	4,000
査 察 等	4,000

5 消防施設等の現況



消防本部庁舎（平成15年竣工）

（1） 消防施設概況

長万部町消防本部（署）			
所在地	北海道山越郡長万部町字長万部450番地21		
竣工	平成15年10月30日	構造	鉄筋コンクリート造2階建一部塔屋
電話番号	01377-2-2049	FAX	01377-2-5260
敷地面積	3,318.0 m ²	庁舎面積	1,100.3 m ²

長万部分団4部機械器具置場			
所在地	北海道山越郡長万部町字長万部390番地6		
竣工	昭和63年5月28日	構造	木造平屋
電話番号	無	FAX	無
敷地面積	264.44 m ²	庁舎面積	45.54 m ²

国縫分団機械器具置場

所在地	北海道山越郡長万部町字国縫37番地1		
竣工	平成30年12月18日	構造	木造平屋
電話番号	01377-5-2331	F A X	無
敷地面積	1,636.61 m ²	庁舎面積	91.95 m ²

静狩分団機械器具置場

所在地	北海道山越郡長万部町字静狩21番地		
竣工	昭和59年8月25日	構造	木造平屋
電話番号	01377-6-2322	F A X	無
敷地面積	231.40 m ²	庁舎面積	83.63 m ²

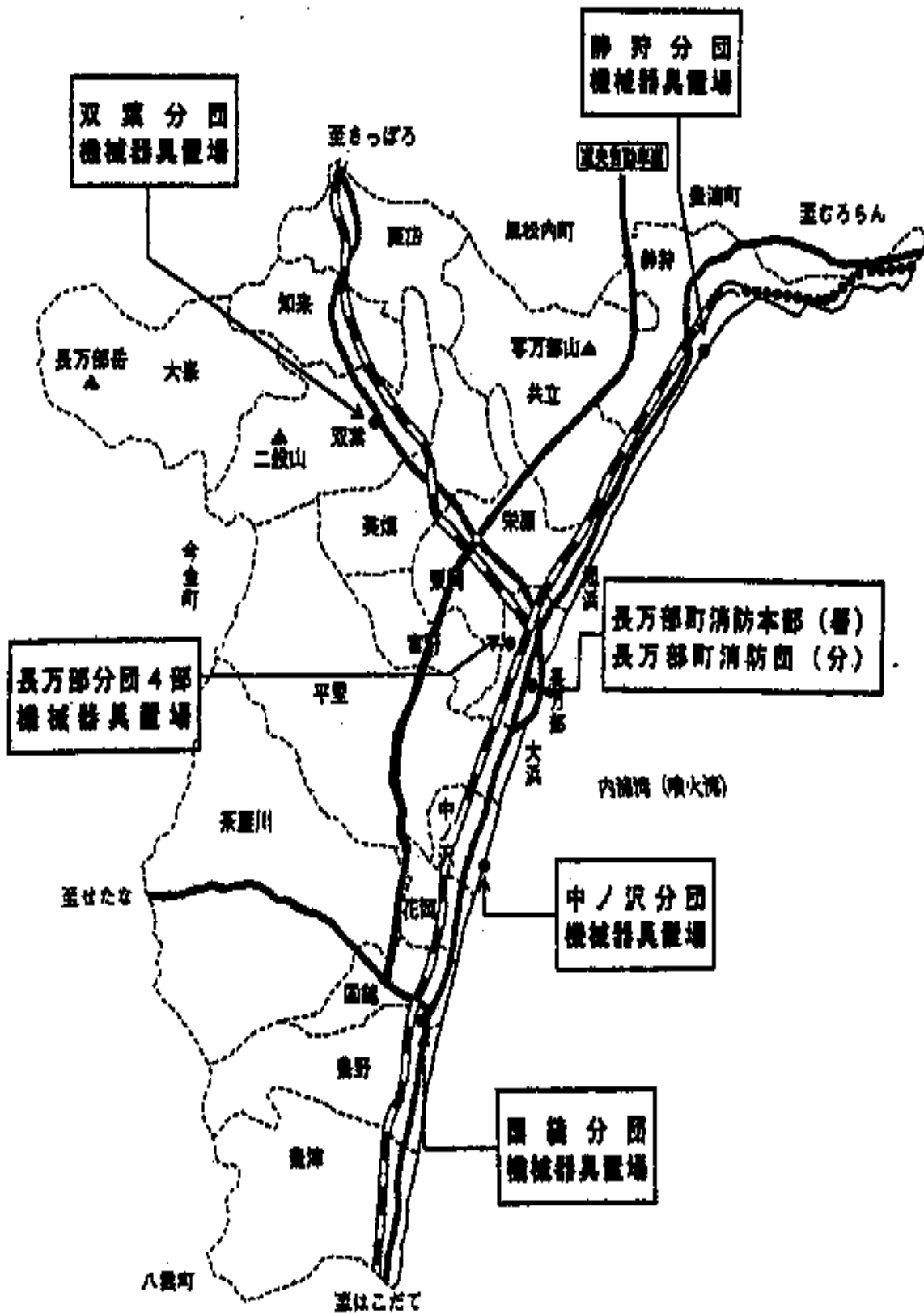
中ノ沢分団機械器具置場

所在地	北海道山越郡長万部町字中ノ沢41番地1		
竣工 改築	平成2年10月30日 平成9年10月27日	構造	木造平屋
電話番号	無	F A X	無
敷地面積	503.00 m ²	庁舎面積	53.82 m ²

双葉分団機械器具置場

所在地	北海道山越郡長万部町字双葉91番地16		
竣工	昭和59年11月15日	構造	木造平屋
電話番号	無	F A X	無
敷地面積	153.32 m ²	庁舎面積	20.70 m ²

(2) 消防施設位置図



6 消防予算

(1)人口・世帯数に対する消防職団員の推移(消防本部設立以降)

区分 年	世帯数 (世帯)	人 口 (人)	職員数 (人)	人口比率 (%)	団員数 (人)	人口比率 (%)	備 考
昭和23年	2,211	11,827	1	0.01	200	1.69	消防本部設立
昭和25年	2,512	13,401	2	0.01	200	1.49	職員1名増員
昭和27年	2,551	13,898	4	0.03	200	1.44	職員2名増員
昭和28年	2,614	14,450	6	0.04	200	1.38	職員2名増員
昭和29年	2,624	14,559	7	0.05	200	1.37	職員1名増員
昭和30年	2,939	15,115	8	0.05	200	1.32	職員1名増員
昭和39年	3,443	17,173	8	0.05	200	1.16	人口最高
昭和40年	3,795	16,938	10	0.06	200	1.18	職員2名増員
昭和44年	3,622	13,740	11	0.08	200	1.46	職員1名増員
昭和48年	3,507	12,583	13	0.10	200	1.59	職員2名増員
昭和49年	3,478	12,280	13	0.11	200	1.63	消防署設立
昭和50年	3,448	12,011	15	0.12	200	1.67	職員2名増員
昭和59年	3,385	10,345	15	0.14	180	1.74	団員定数改正
昭和61年	3,244	9,727	15	0.15	180	1.85	人口1万割る
昭和63年	3,685	9,610	15	0.16	150	1.56	団員定数改正
平成 4年	3,630	8,888	17	0.19	150	1.69	職員2名増員
平成 9年	3,568	8,193	20	0.24	150	1.83	職員3名増員
平成11年	3,542	7,954	20	0.25	150	1.89	人口8千割る
平成17年	3,177	6,900	20	0.29	150	2.17	人口7千割る
平成20年	3,127	6,495	20	0.31	150	2.31	
平成21年	3,136	6,386	20	0.31	150	2.35	
平成22年	3,074	6,235	20	0.32	150	2.41	3月31日現在
平成23年	3,029	6,094	20	0.33	150	2.46	3月31日現在
平成24年	3,009	5,968	20	0.34	150	2.51	人口6千割る
平成25年	3,037	5,909	20	0.34	150	2.54	3月31日現在
平成26年	2,996	5,745	20	0.35	150	2.61	3月31日現在
平成27年	2,997	5,673	20	0.35	150	2.64	3月31日現在
平成28年	2,937	5,462	20	0.37	150	2.75	3月31日現在
平成29年	2,892	5,320	20	0.38	150	2.82	3月31日現在
平成30年	2,895	5,282	20	0.38	150	2.84	3月31日現在

※人口は国勢調査並びに住民基本台帳調、職団員については条例定数調

(2)町勢と消防現勢比率

平成30年

区分 / 町勢	人口 5,320 人	世帯数 2,892 世帯	面積 310.76 km ²
職員1人当り 20 人	266.0 人 0.4 %	144.6 世帯	15.5 km ²
団員1人当り 150 人	35.5 人 2.8 %	19.3 世帯	2.1 km ²
消防車1台当り 9 台	591.1 人 0.2 %	321.3 世帯	34.5 km ²

※人口・世帯数・職団員数にあつては平成30年3月31日現在

(3)一般会計に対する消防費比率

年度／区分	一般会計	消 防 費	消防費比率	人口当りの消防費	世帯当りの消防費
平成20年度	3,577,000 千円	175,775 千円	4.9 %	27,525 円	56,051 円
平成21年度	3,692,000 千円	180,143 千円	4.9 %	28,209 円	57,443 円
平成22年度	3,832,000 千円	179,206 千円	4.7 %	29,406 円	59,163 円
平成23年度	3,775,000 千円	195,580 千円	5.2 %	32,771 円	64,998 円
平成24年度	3,920,000 千円	194,386 千円	5.0 %	32,571 円	64,602 円
平成25年度	3,864,000 千円	198,463 千円	5.1 %	34,545 円	66,242 円
平成26年度	4,247,000 千円	399,734 千円	9.4 %	69,579 円	133,423 円
平成27年度	4,070,000 千円	187,306 千円	4.6 %	35.208 円	64.767 円
平成28年度	4,276,000 千円	191,583 千円	4.5 %	36.012 円	66.246 円
平成29年度	4,216,000 千円	256,162 千円	6.1 %	48.151 円	88.576 円
平成30年度	4,664,000 千円	194,161 千円	4.2 %	36.496 円	67.137 円

(4)平成29年度消防費決算額内訳

(単位:千円)

決 算 額	常備消防費	非常備消防費	消防施設費	
263,365	166,018	13,699	83,648	

(5)平成30年度消防費予算額内訳

(単位:千円)

予 算 額	常備消防費	非常備消防費	消防施設費	
194,161	167,129	13,055	13,977	